

江東未来会議
第1分科会（子育て・教育分野）
第5回 議事概要

日時：平成19年12月13日（木）19:00～21:15

場所：文化センター2階 旧区政PRコーナー

参加人数：19人

1．開会

2．事務局からの連絡事項

（1）配布資料の確認

- ・配布資料の確認

（2）今後のスケジュールについて

- ・第6回会議を1月31日（木）、第7回会議を2月22日（金）にするとの報告があった。

（3）提言書の作成に向けた今後の進め方等について

- ・「江東未来会議提言書の作成に向けた今後の進め方」及び「江東未来会議提言書の構成（案）」の2資料について説明があった。

参加者

- ・ここで提案された提言書を区長に提言し、その後審議会の基礎資料となるとのことであるが、どの程度まで尊重されるのか。既に区長が学童クラブと放課後子ども教室を統合することを議会で答弁しており、決まっていることをこの場で議論させるということに意味があるのか。

事務局

- ・どこまで加味されるのかは、審議会メンバーの考え方によるものであり、現段階で区役所としては回答できない。

参加者

- ・既に江東区で内々に決めていることがあるのに、それと異なる提言がこの会議から提案されるとすれば、この会議自体が無駄になるのではないかと。審議会のメンバーはどのような人か。

事務局

- ・審議会委員についてはまだ全く決まっていない。条例自体がようやく可決されたところである。

参加者

- ・審議会の傍聴ができるような制度にすれば、我々が提案したことが却下されるとしても、議論されたことはわかるのではないかと。傍聴できるようにしていただきたい。

事務局

- ・審議会の傍聴を認めているかどうか確認する。

参加者

- ・会議を設けている以上は、意見を尊重するということを約束してほしい。

参加者

- ・しかし、当会議の意見を尊重するとなると、他の区民の考え方はどうなのか。40万人いる区民の中で会議に出席している区民の百数十人の意見しか反映されないことになってしまうのではないかと。

参加者

- ・同様の意見が第一回目にされたと記憶している。その時も基本構想は審議会メンバーが区長に答申するとの説明だったと思う。区長は、区民が選挙によって選出しており、行政トップとしての意見を議会で述べているのだと思う。また、審議会では、区民意向調査や社会の動向等についても基礎資料となる、としており、当会議による意見は、まとまった一つの区民意見として位置づけていただけるということで理解すればよいのではないかと。
- ・区長の答弁は区長の考え方であり、この会議で提言されたことは我々の意見として、最終的には審議会で、区民意向調査や社会情勢、財政面等を考慮しながら審議されればよいのではないかと。
- ・我々は、社会情勢などあまり気にせず、自分たちの考えで、要望などを挙げていくということではよいのではないかと。

参加者

- ・区長答弁が決まっていることであるなら、それをここで議論することの意味はないのではないかと。

参加者

- ・この会議は未来会議であるから、現段階での話を気にすることなく、未来について提案していけばよいのではないかと。最終決定は審議会であるのだから、その土俵に乗せてもらえるだけでもよしとしたらどうか。

参加者

- ・既に答弁がされているとしても、来年度の事業であることを考えればやむを得ないのではないかと。ここでの提言を待つまでにすべき事や考えている事はたくさんあって、ここでの提案を待つために、それまで審議しないという方がおかしいだろう。
- ・江東区の未来を真剣に考える区民として、まとまった意見を提言させてもらえればよいのではないかと。そこから先は専門家の方々にお任せするということではよいと思う。

参加者

- ・審議会の委員は、専門家なのか。そこにつけるのではないかと。

3 . 本日のワークショップの進め方について

高重コーディネーター

- ・本日は、前回資料の最下段にある「何をすべきか」に該当する具体的なアイデア事業を出していく。その時、行政、区民、民間など事業の主体や、何のためにやるのか、どのような取り組みをしていくのかを明確にしておく。
- ・事業は、いくつ出してもよいとのことであるので、グループ中でいくつかに別れて議論いただいてもよい。討議の進め方については、グループで司会者を決めていただき進めていくこととし、また、討議の経過や結果がわかるように、書記を決めていただき、付箋に記録を残しておいてほしい。

4 . ワークショップ

(1) 作業

子育て・教育分野を「教育」「子育て」「地域」の3つのグループに分け、アイデア事業等について議論を行った。

【グループ毎に作業】

(2) 発表

【作業結果】詳細は別紙(「第5回江東未来会議 子育て・教育分野」グループ別取りまとめ)参照

地域グループ

- ・教育や子育てに対して、地域が一体となって参加する仕組みを作る事業を考えた。この場合の地域は、区民や民間企業、行政などを含めて地域と考えている。参加の仕組みとして、地域コーディネーターという人・チームを作り、中学校区程度に配置していくというのが一つの提案である。
- ・行政内部に機関を置き、地域住民が参加するコーディネーターを教育・育成し、地域にコーディネーターの機関を設置していく。
- ・コーディネーターは、子育て・教育をするために地域の資源をつなぎ、活用していく。例えば、子どもの居場所やプレイパークを作りたいというような事業、農業体験をしたいたいというような要望に対して、場所を考え、具体的に学校施設の空き状況や町内会館の利用可能時間などを調べ、活動できるようコーディネートすることで活動する人達を支援し、また、自らも参加する役割を担う。
- ・子ども、子育てを豊かにするという意味では、世代間が交流できるような事業も実施していく。
- ・このコーディネートには、企業が地域と融合しやすいようにコーディネートすることも含めている。

子育てグループ

- ・共働きで子どもを育て、子どもが大きくなってから、親の近隣で子どもが住めるような地域づくり、助成があれば、三世代が同一地域に居住し、互いの世代を支援し、支えることができるのではないかと意見があった。
- ・コーディネーターを育成する、ということについては地域グループに同感であり、そのコーディネーターにどのような活動が求められるかについて検討した。高齢者と子育て世代、子どもの交流によって世代間がつながり、社会の常識が先輩から子どもにつながっていくのではないかと。
- ・近年、集合住宅などでは近隣や上下世帯で、子どもの足音など騒音問題が発生しているようだが、交流が促されることによって、互いを理解したり、感化されていくこともあるのではないかと。
- ・子どもの安全・見守りということについても、高齢者などの目が地域に向いてくることによって、子どもが安全に育てられるのではないかと。
- ・大きなこととしては、プレイパークのようなのびのび遊ぶような場所を作ることが挙げられている。区内には冒険遊び場ができてきているが、ボランティアによって運営されており、行政の助成がない。子どもをもっと広い場所で伸び伸びと遊ばせてやるのが子どもたちの精神的・身体的な健康につながり、人間的な面でも育っていくのではないかと。
- ・児童館やみずべにおける交流の充実についても、近隣住民が参加することで、上の世代から次の世代へ伝わっていくものもあるのではないかと意見があった。
- ・新生児にボランティアによる家庭訪問型の育児支援をするということが挙げられている。出産直後、地方から都会へ戻った時に子どもを抱えて困っていることが多いことから、こういう家庭に研修を積んだボランティアが訪問して、悩みを聞いたり、時には手伝いをするなどによって、産後の鬱から開放することができるのではないかと。それが児童虐待の防止にもつながるのではないかと。
- ・そのためには行政主導でボランティアを養成し、活動に関する広報を行うことが必要である。
- ・子どもを預かる場所については、行政としてしっかりやっている所がない。一時預かりをしてくれる民間はあるが、地域ごとに考えられないかということが挙げられた。
- ・孤立した子育てをなくすことが必要であり、そのために地域で子育てを支える場所を作ることが挙げられている。ここでは、現在地域にある図書館の子ども図書コーナーを活用して、子育てを支援する、交流の場などに有効利用していかれないか、という意見があった。
- ・共働き世帯の子育て支援について、保育園の充実なども挙げたい。

教育グループ

- ・教育分野については、子どもの教育、子どもを取り巻く周囲の人々の教育の問題、地域を中心とした教育のあり方という3つの方向があると考えられる。

- ・子どもの教育については、2点あると考えた。一つは人間性豊かな子どもを育てたいということ、学力をつけてほしいということである。
- ・子どもを取り巻く周囲の人々の教育については、特に、親に対する教育や支援する仕組みが必要なのではないかと意見である。
- ・地域については、崩壊している地域を子どもを中心として再構築し、地域に密着した教育を作ることが必要ということである。
- ・これらを含めて考えると最終的な意見としては、学校施設を活用することで、地域の再構築を図り、子どもの教育の中心として、また、親や大人の勉強の場としていく、というものである。
- ・具体的には、学校を地域に開放し、学校に様々な専門家に来ていただき、教育だけでなく、その他子育ての相談などできるような地域の教育の拠点としていく。また、学校としては、教育水準を維持してもらうことが必要であること、さらに、地域住民が参加できるプログラムをつくり地域の人を巻きこんで、農業をはじめとした幅広い体験を実施していくための入り口になったらよいのではないかと、という意見に取りまとめた。
- ・小学校、保育園が一緒になっている所があるが、そこに子育てセンターや保健センターを同居させれば、子育て中の親が行けば、異年齢の子どもと遊ぶことができ、親同士も勉強になるなどメリットがあるのではないかと。いわば、子ども関係施設のスーパーマーケット方式というものもよいのではないかと、との話をした。先日、テレビで小さな町で保健や子育てなどの施設を一緒にすることが地域の活性化につながっているという事例を紹介していた。江東区でも廃校や空き教室などを利用してこうした施設を作ってはどうかと考えた。

参加者

- ・学校開放についてはだれが専門家と呼ぶのか。

教育グループ

- ・学校は、教師は教育に専念してもらい、行政が人材を育成あるいは募集し、その人を中心として地域で子どもの教育をする仕組みを持つということである。
- ・学校は従来の子どもと親だけの学校という固定観念をはずし、専門家など様々な地域の人々が、訪れ、互いに学び合う場として再構築するという考え方である。
- ・地域再構築のための拠点でもあるし、ソフトの中心が学校になると位置づけている。

教育グループ

- ・学校の中に地域支援室のようなものをつくり、コーディネーターを配置して、地域と学校が関わり合いを作っていくということも考えられる。
- ・学校の生徒が地域に入っていくこと、例えば、高齢化した団地が多くなってきた地域では、ボランティアの部活動などで生徒が、地域に入るなども今後はあってもよいのではないかと。このような開かれた学校としての学校側からの働きかけも必要だと考えた。

参加者

- ・大人の教育ということはないのか。

教育グループ

- ・コーディネーターの役割の中では子どもだけでなく、大人も関わっていくことになると思う。

参加者

- ・子どもから大人までの教育という観点ということと理解できる。

参加者

- ・米国では、学校が地域住民に対する教育プログラムを提供している。そこでの教育は、地域の人々が、世代を越えて学ぶ場となっており、同じカリキュラムの中で他世代の考え方や体験などを聞くこともできる。こうした学びが豊かな発想力などを築くことになっているのではないか。

5 . 次回の議論について

高重コーディネーター

- ・地域の中にコーディネーター機能を持ちながら、学校など施設を有効活用し、子育てや教育を進めるというような関係づけができたように思う。
- ・事務局で再整理し、部会として合意できたものを提言することなので、次回までにまとめ案を提案して議論したいと考える。

6 . スケジュールについて

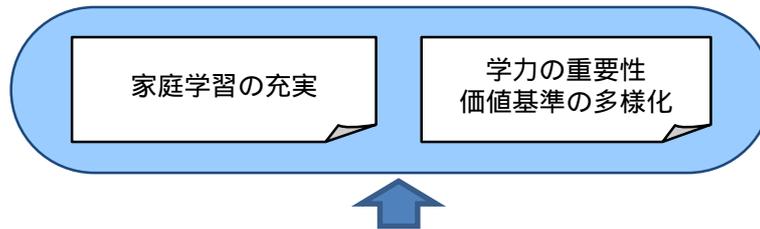
< 次回以降のスケジュール >

第6回 1月31日(木) 19:00~21:00 (場所) 江東区庁舎7階第72会議室

第7回 2月22日(金) 19:00~21:00 (場所) 文化センター2階 旧区政PRコーナー

第5回 江東未来会議 子育て・教育分野

<教育グループ>

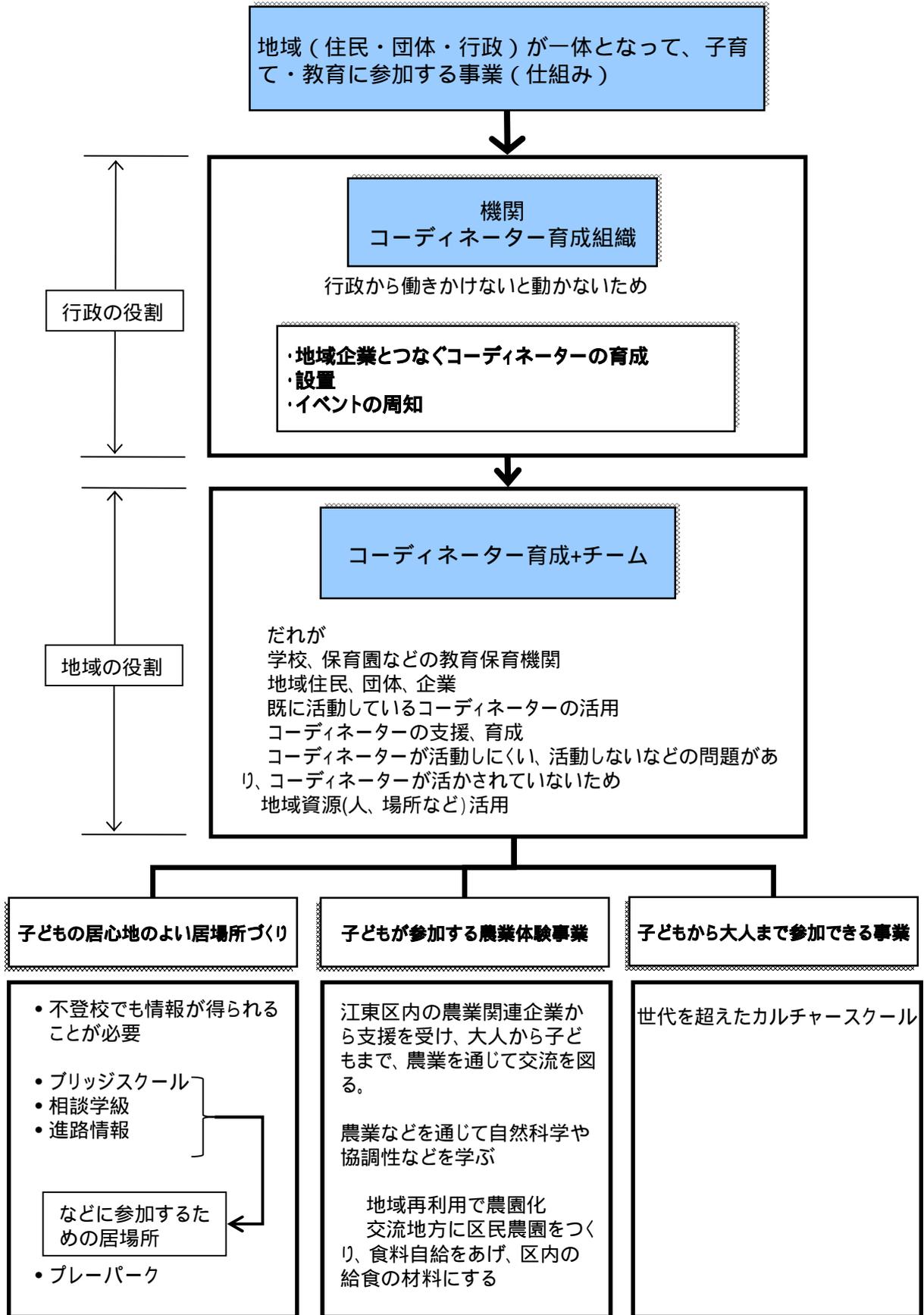


誰が	何を	何のために	内容
行政	人材育成	地域の再構築のため	区民に活動を提案・主導できる人材を育成
学校	教師の専門化	学力の向上 家庭コスト低減	担任と教育の分離 教育、その他サポート専門家の補助
親と子ども	親が安心して子育てができ、コミュニケーションを作れるとともに、子どもが一人ぼっちにならない	子どもを育てる第一の責任は親にある	小学校、保育園、子育てサポートセンター、保健センター等を1ヵ所にまとめて置く
地域の人	学校の中に地域支援室を作り、学校長と接点を持つ組織とする	<ul style="list-style-type: none"> ●学校において先生が目が届かない時間等にいじめの発生がないか ●生徒とのコミュニケーションがとれ、大人が見ていることを知らせる ●地域とのパイプ役を務める 	支援室を支えるリーダーとなる人を作り、地域に呼びかけて、サポーターを募集する
地域	学校開放	皆が集まる場を作り、親の教育(相談できる環境)・地域の再構築をする	児童を中心に地域の人が集まる場として学校を開放する
区民	セカンドステッププログラム幼稚園に導入	心の育成、コミュニケーション能力	感情プログラム 怒りのコントロールプログラム
学校	施設の活用	地域の再構築 子どもの教育の中心 親、大人の勉強の場	<ul style="list-style-type: none"> ●学校を開放、専門家の充実 ●教育水準を高め、地域住民に対する様々なプログラムを開く ●園芸、農園(クラブ)への入口
中学校卒業時に学力が十分でない生徒	夜間中学の設置	社会生活に対応するため	義務教育の内容を再勉強する
外国人の大人のため	日本語教室	日本人との共生のため	<ul style="list-style-type: none"> ●江東区内の文化センターにおける日本語教室 ●安い授業料 ●夜間学習

江東区の農場を近県に持つ(田畑)
 姉妹都市の協定を結び、地元の農家の協力を得て田畑の管理、指導をしていただく(地元の活性化にもつながる)。
 ・種まき、田植え、除草、手入れ、収穫等の全ての工程を体験し、植物(食物)への関心を深めて、食育と労働の大切さと喜びを体験する。そして感謝の心を養う。
 ・収穫した作物は学校給食に役立てる。
 ・残飯は農場へ運び、堆肥にし、役立てる。

農場近くに宿泊施設を建てる(調理室、理科実習室も併設)
 ・宿泊して早朝の労働体験、調理実習(地元の郷土料理も)
 ・ホームステイも取り入れる
 区民だれもが自由に訪問できて、見学や農業体験ができるようにする。区報にて田畑の状況を知らせる。

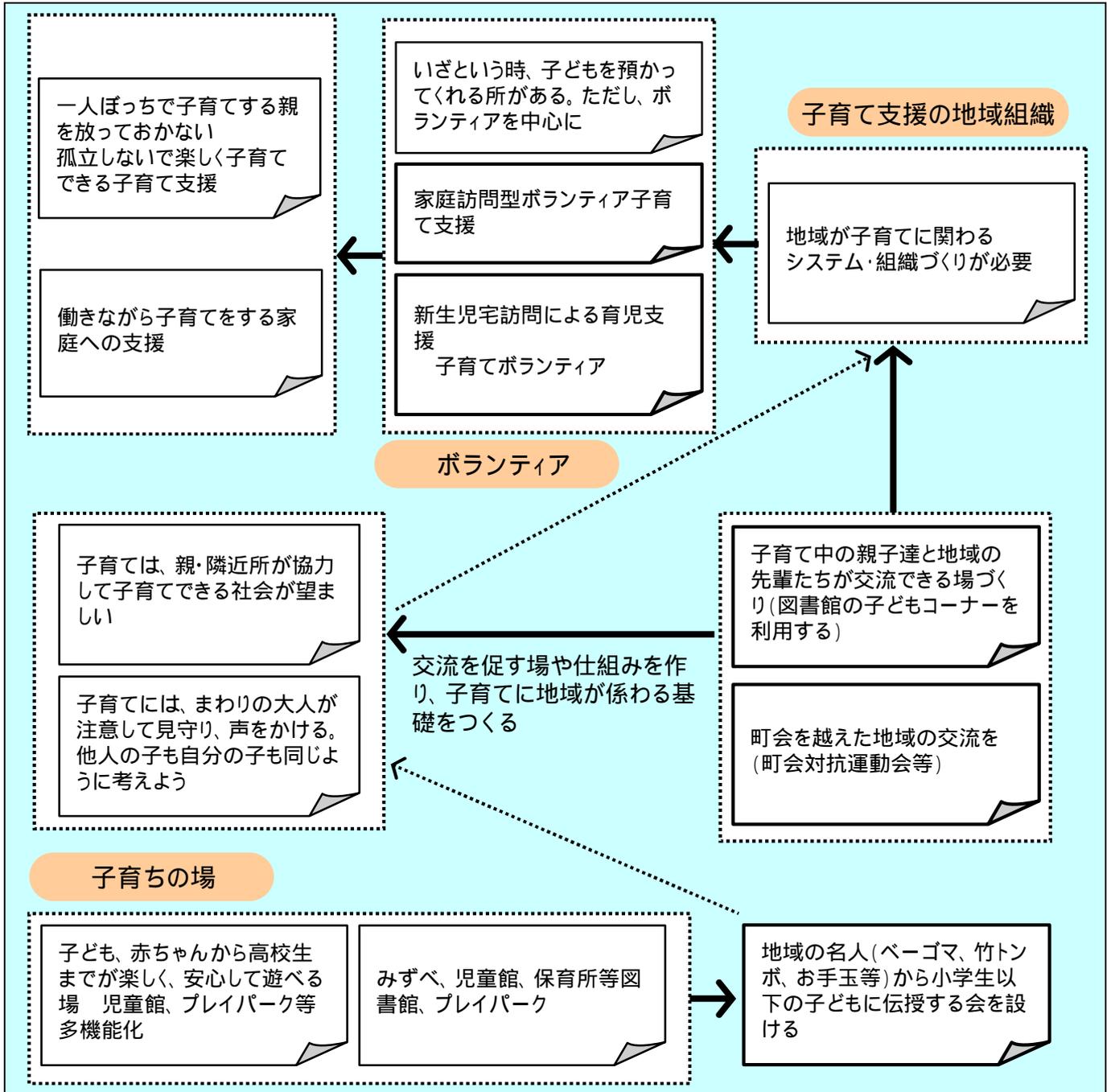
< 地域社会グループ >



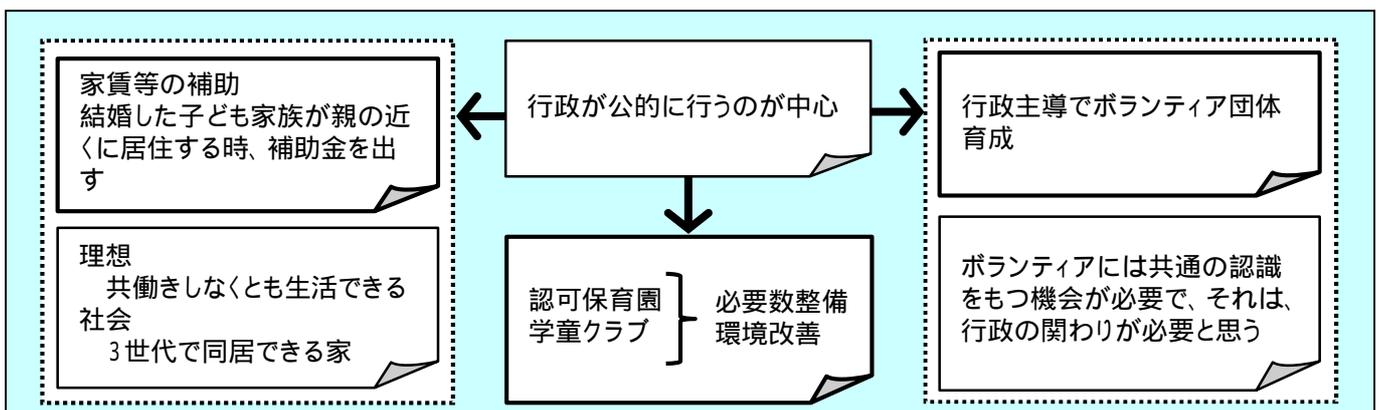
地域社会グループ：

<子育てグループ>

区民の取り組み



行政の取り組み



子育てグループ: